【授業科目】診断・治療学概論　　Diagnostics／Therapeutics

担　当　教　員	開講年次	選択必修	単位数	時間数	授業形態	実務経験	オフィスアワー	教職員への授業公開
山口 央輝	１年次 後　期	必　修	1	１５	講義	あり	巻末 掲載	可

授業概要 （内容と進め方） 及び 課題に対する ﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ方法	授業概要／看護学を学修していくすべての過程において必要不可欠である医学的な基本事項と、実際の診断～治療がなされる過程での重要な事項、および診断から治療が行われていくなかで看護が果たすべき役割の概要について、講義を中心にして学習する。 課題に対するフィードバック方法／講義において口頭でコメントする。 ＊実務経験を持つ教員が授業を進める。
実務経験に関する 授業内容	医師の臨床経験をもつ教員が、看護師として必要な診断・治療学の知識について、教科書・文献・教材を交えながら教授していく科目である。
授業の 位置づけ	本学のディプロマ・ポリシー②「人間の健康を環境との関係において捉え、地域社会の生活者の視点から看護の役割を考え、実践することができる」の達成に寄与している。
到達目標 （履修者が到達 すべき目標）	①　診断学における基本的な知識を修得し、述べることができる。 ②　治療学における基本的な知識を修得し、述べることができる。 ③　診断～治療の過程をとおして必要な看護師の役割について述べることができる。
時間外学習に必要な 内容・時間	第１回～8 回事前学習：指定の教科書を事前に読んでおく。（各 2 時間） 第１回～8 回事後学習：各回の授業内容を振り返り不足部分は自己学習にて補っておく。（各 2 時間） ※上記時間については、指定された学習課題に要する標準的な時間を記載してあります。日々の自学自習全体としては、各授業に応じた時間（２単位１５回科目の場合：予習+復習４時間／1回）（１単位１５回科目の場合：予習+復習1時間／１回）（１単位８回科目の場合：予習+復習４時間／１回）を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。
授業計画	第1回　薬物療法・食事療法 第2回　運動療法・リハビリテーション療法 第3回　放射線療法 第4回　外科手術手技・処置の基本 第5回　麻酔の知識 第6回　術前・術後管理と術後合併症の管理 第7回　炎症と外科的感染症 第8回　まとめ 全て 山口
評価方法 評価基準	試験（90%）、受講態度（10%）で総合的に評価する。
教科書	柴輝男、安原洋編『新体系看護学全書 別巻 治療法概説』、メヂカルフレンド社 参考書等：病気がみえる シリーズ（メディックメディア）
学生への 助言等	看護学を学修するために必要な診断・治療方法の基礎的な事項を学びます。医学・看護学の“常識”の修得に努めてください。 講義中の食事・携帯電話による通話・私語・教室の出入りは原則禁止とします。 ただし、PC, タブレット等の電子デバイスは積極的に使用し、効果的な学修に努めてください。